日 時 平成23年 8 月29日(月)
13:00～17:45

会 場 日本学術会議講堂
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口徒歩1分
（東京都港区六本木７-２２-３４）

学術フォーラム
生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割

【参加費無料】 定員300名※定員に達し次第締め切ります。

プログラム

【開会あいさつ】１３:００～１３:１５
広渡　清吾　日本学術会議会長/専修大学法学部教授

【基調講演】１３:１５～１４:３０
吉倉　廣　日本学術会議連携会員/国立感染研究所名誉所員
マルコム・ダンドー　ブラッドフォード大学教授

【セッションⅠ：最近の生命科学の進展と新たなリスク】１４:３０～１５:３０
コーディネーター：**春日　文子**　日本学術会議会員/国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部室長
報告者１：**小安　重夫**　慶應義塾大学医学部教授
報告者２：**今給黎　学**　外務省生物・化学兵器禁止条約室長
報告者３：**山村　雅幸**　東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
質疑・討論

【セッションⅡ：我が国での取組みと今後の課題】１５:４５～１６:４５
コーディネーター：**四ノ宮成祥**　防衛医科大学校教授
報告者１：**山田　憲彦**　航空幕僚監部首席衛生官/前防衛医科大学校防衛医学講座教授
報告者２：**加藤　和人**　京都大学人文科学研究所/京都大学大学院生命科学研究科准教授
報告者３：**渋谷　健司**　東京大学大学院医学系研究科教授
質疑・討論

【全体討論】１６:４５～１７:３０

【閉会あいさつ】１７:３０～１７:４５
唐木　英明　日本学術会議副会長/東京大学名誉教授

開催主旨

近年の生命科学の進展を踏まえれば、研究者が意図していなくとも、研究遂行上の不注意等により、生命科学の知見や技術が社会に危険をもたらしたり、軍事利用されるような事態が発生することが想定されます。

こうした事態の発生を避けるために、生命科学分野の専門家による議論を行い、理解を深めるとともに、科学者の役割について考えます。

主催　日本学術会議

協力　外務省、防衛省

後援　文部科学省
厚生労働省
（独）科学技術振興機構
社会技術研究開発センター
（一財）バイオインダストリー協会

<お申込み・お問い合わせ先>　申込フォーム(https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html)
日本学術会議事務局企画課公開講演会担当　TEL:03-3403-6295／FAX:03-3403-1260